

道徳性の発達について

私は高齢で膝が悪く杖を用いている。先日、地下鉄に乗車したらあいにく優先席が一杯だったが、中高年女性二人が席を譲るべく立ち上がろうとしてくれた。しかし隣席の男子中学生が全く無関心にスマホを弄っている。私は彼に「席を譲ってもらえないか」と声をかけた。彼は「えー?」と不満そうな声を出し、一拍してから私の顔を見て、立ち上がって席を譲ってくれた。もちろん私はにっこりして「ありがとう」と彼をねぎらった。

彼が優先席に座ること自体はルール違反ではない。しかし、優先されるべき人に席を譲ろうとしないならモラルに反する行為になる。これが一般席での出来事であれば、彼はマナーには反するが、モラルに反すると言えるかは微妙であろう。

1 ルールとモラルとマナー

ルールとは、規則、規定、決まりなど、社会生活や集団生活で守らないと、不利益を科される決まり事で、これを守ることによって一定の秩序が保たれる。

モラルとは、道徳、倫理、良心など、個人や集団が持つ道徳的な価値観や倫理観の原則である。これは、善悪や正義の判断を伴う個人的感性であり、法的な拘束力はない。しかし、モラルによる心の動きが、協力、助け合い、励ましあい、思いやりの心を生むのであり、集団生活は、モラルがなくては成り立たないものであり、人間らしい生活をする上では欠かせないものである。

マナーとは、礼儀、作法などの、その場での適切な振る舞いや言動を示すもので、社会や集団での「暗黙の了解」のようなもので、破っても罰せられることは無い。

社会生活や企業活動で、ルール(規則)違反には罰や不利益のほかには社会的非難も受ける。モラル(道徳)に反した活動や行為は、そこまでの不利益は無いが、普通に心ある人たちからは避けられ、社会的信用も低下する。それだけではなく、モラル(道徳)に反した非難や嫌がらせや無視などを続ければ、モラルハラスメント(モラハラ)にもなりかねない。マナー(礼儀)違反には眉を顰めるが、ある程度寛容に接していかなければ、この世の中を上手く過ごせない。しかし気を付けないと、慇懃無礼や営業スマイルはマナーを守っているようで、実はモラルに反している場合も少なくない。一見礼儀正しい言動で若者や高齢者を騙す犯罪が氾濫する昨今でもある。

2 道徳性の発達段階説

では、どうやって人はモラル(道徳性)を身につけるのか、どのように獲得され、発達するのか。人間の成長・発達段階に合わせて、ハーバード大学教授であったローレンス・コールバーグが唱えた、道徳性の発達段階についての学説を紹介したい。

① 道徳以前の水準

段階0⇒「欲求の希求志向」 この段階では自己の欲求や願望が満たされるか否かが問題であり、他者とは関係ない自分の満足・不満のみが意識される。

段階1⇒「罰回避と従順志向」 この段階では罰を受けるのが悪いことで、親や権威者の言う通りにするのが良いことである。正しさの基準は他律的である。

段階2⇒「道具的互惠、快樂主義」 この段階では、自分にとって得か損かが正しさの基準になる。こうしてあげると自分が得をするし快い、これをしたら損をするし不快だと、基準に他者との関係が意識される。

② 慣習的な道德の水準

段階3⇒「他者への同調、良い子志向」 この段階では集団に属して良い人間関係を持とうと意識する。良い人であることが習慣的に意味を持ち、正しさの基準になる。良心が意識され罪悪感が行動を規制する。

段階4⇒「法と社会秩序の維持」 この段階では、社会の構成員の一人として秩序や規則を守ることが、自分の義務であり責任でもあると自覚される。自発的に家族、会社、地域などの集団と関わりそこで役割を果たすことが意識される。

③ 慣習を超えた自律的、原理的な道德の水準

段階5⇒「社会契約、法律の尊重」 この段階では、自分にとって道德や社会規範をもはや意識せずに、自律化し原則的になっている。個人の権利が尊重され、社会的公平が基準になる。また、不合理な規則は改められることを意識している。

段階6「普遍的、原理的原則への志向」 この段階では「普遍的愛」「正義」「平等」などの全ての人間の尊厳を尊重する行為が正しさの基準になる。この段階の人としてコールバーグはノーベル平和賞の医師シュバイツァー博士、聖マザーテレサ修道女などを挙げている。

3 「快・不快」原理から「善・悪」原理への発達

コールバーグの道德性発達段階説で注目すべきところは、道德以前の乳幼児的(動物的)段階から聖人と言われる人の普遍的道德水準までを段階的に説明したことであり、**特に、小児的な「快・不快」原理の段階は道德以前であり、道德と言える水準は、集団生活での「善・悪」原理の段階に至って獲得されることを明らかにしたことである。**責任ある社会人であれば、少なくとも段階4の意識的に善悪の判断に基づいて行動する水準であろう。さらに求められる段階は、道德規範が内面化され意識せずに日常生活が送られる段階であり、社会的弱者も尊厳ある一人として尊重され必要な援助が得られる第5段階の水準である。形式的には我々の社会はこの水準にあるが、現実には、未熟な発達段階で留まっている大人も多数いる。また、企業倫理にも同様のことが言える。

発達段階の視点で、それぞれのモラル(道德性)の段階の検証を行ってみてはどうだろう。その上でモラルに基づいた行動はどうあるべきかを考えたい。



2024年8月
心理部会 水野 邦雄
(臨床心理士)

「ひとりで悩む前に」お気軽にご相談ください。